

「自分が必要とされている」という感じが、 通訳の仕事の醍醐味です」

●通訳の仕事の醍醐味とは何でしょうか。

行ったことのない国や地域に行くことが出来るのも楽し

いですし、例えば先ほど述べた会議では、自分がいないと会議が進行しませんから、自分が必要とされていることに

満足感を感じますね笑。そして上手く通訳の役割を果たし、その会議が無事終了したときは、大きな達成感や充実感を得られます。またこの仕事を通して、普段自分が接することのない世界を垣間見れるのもメリットの二つだと思います。舞台照明会社の依頼を受けたときは、舞台裏などに足を運べましたし、様々な業界で活躍する人たちに触れる機会が多いこともこの仕事の特徴ではないでしょうか。その二つ二つの出会いを大切にしてきたことで、広い人脈を築くことが出来たように思います。

●通訳に必要とされる点、特にご自身が気をつけている点を教えてください。

通訳の最中、メモを取るべ

んのインクが出なくなったりか、知らない単語が出てきてしまった、また、それ以外に予期しないハプニングが起こることは少なくありません。そういう場合におおると戸惑っていたのでは、仕事になりません。通訳はその時、その場所ですら、何事にも臨機応変に対処出来る姿勢が必要だと思えます。逐次通訳、リエゾン通訳ではメモ取りが重要な役割を果たすのですが、そのため、常に書きやすいボールペンを三〜四本持つていくようにしています。握りにくかったり、インクが出にくかったりするペンや芯が折れてしまうかもしれない鉛筆、インクの滲むペンなども使用しません。たいしたことはないように思えるかもしれませんが、こうした基本的なことができないと大きな失敗につながりますので、口をすっぱくして学生達にも伝え

ています。

●最後に、読者に一言お願いします。

イギリスにいても日本にいても、結局は自分次第。自分は年だからとか女性だからとか、何か理由を作って行動に移さないよりも、あきらめず努力を続けていけば、叶わない夢はないと思います。ですから、やりたいことは必ず実現出来るということを信じて毎日を大切に送って欲しいと思います。

通訳翻訳修士コースの卒業生達とは定期的に集まるように、取材後の集まりにも参加させていただき

ました。パブでは仕事やプライベートの話で盛り上がり、学生達から慕われている様子が伺えました。仕事に趣味に生き活きと活躍されている先生に、非常に刺激を受けました！



卒業生や在学生とはよくパブで集まる。学生同士、良い情報交換の場になることも



バース大学のキャンパス

清水美子(しみず・よしこ)先生

同志社女子大学学芸学部英語英文学科卒業。通訳・翻訳の仕事を経て、バーミンガム大学院に留学のため渡英。言語学・翻訳学を専攻。2004年より現職。

●バース大学

通訳翻訳修士コース

<http://www.bath.ac.uk/esml/int-trans/>